

ファーストキスはエスキモーに

春日 常貴

私は彼女いない歴22年である。その理由を人に聞かれた時は部活動に熱中しすぎたからと言いつける。街で手をつないでいるカップルとすれ違うときなどは人事ながら何となく恥ずかしくなる純朴な青年であり、都会の寒空の下で一人関大スラム（関大校舎の裏側に密集した薄汚い木造の学生下宿街）の4畳半下宿に細々と暮らす寂しい学生でもある。しかし私と同じく薄汚い男の仲間は腐るほどたくさんいる。彼らもほとんど私と同じ境遇で寂しい男どもであり、しかも普段の探検部内の合宿では同じ釜の飯を食い同じテントで寝起きをするからお互い気心が知れてい過ぎて図々しいことこの上ない奴らで私もその一味である、というより首班格である。夜な夜な鹿野の下宿に酒を持ち合って寄り合いを開くときなどは決まって女性の話題となり答えのない討論は朝まで尽きず、毎回決まって“男にとって女は永遠のテーマである”という結論に達し、お開きとなる。

無論奴らと比べれば私も女っ気は多少ある。恐縮ながら私は2、3度合コンなるものを友達の誘いで経験したことがあるからだ。しかしどうもあの雰囲気が好きになれないし、そこで出会った大概の女性は孔雀のようなけばけばしい衣装を見にまとい口元を真っ赤なルージュに染めたスナックのホステスのような人達ばかりで好きになれなかった。それでも一度だけ胸をときめかせてくれた女性もいた。部内の毎度のメンバーで企んだコンパでレンタカーを借りて探検部の山小屋へ行こうというものであったが、あいにくの大雪にたたられ車がスリップして京都の山奥に閉じ込められてしまい脱出するのに夜の12時ころまで雪と奮闘した忘れ難い思いでのコンパで出会った娘で、やみ夜に光る健康的な白い歯が印象的であった。しかしこれも運命であろうか、大学生活でたった一度だけ好きになったその娘にも思いを伝えられぬまま私はアラスカへ旅立ってしまったのである。

こんな純朴な私に遠征地のアラスカで、ある出来事がおこった。結論から言ってしまうとエスキモーの女性に私のファーストキスを奪われてしまったことである。ユーコン河源流を出発してから2か月半あまり経とうとしていたころであろうか。もう海が近く流域の集落は内陸部のインディアン村からベーリング海沿いに住むエスキモー村に変わっていた。補給のため村に停泊し、出発しようとしていた早朝の出来事であった。朝目覚めるとその日の朝食当番であった藤巻と戸谷が既に食糧テントのなかでガタゴトと準備を始めていた。ふとその時彼らの声に混じって女性の声が寝ぼけた耳に入ってきた。せっかくの来客にこのまま寝ているのも失礼かと思いテントからのこのこ出ていったのが悲劇の始まりであった。冬が近く夜中が異様に冷え込むため膀胱がパンパンで急いで朝一の小便をしようと思うが村の真っ正面の河原にテントを張っているためその辺でするのもなんだ

から食糧テントの死角でしようと思いズボンのチャックを開けながら小走りをして死角に入り男の象徴をブラリと出した瞬間である。なんと先客がいた。しかも歳は我々と同じぐらいのエスキモーの女性で正面から向かい合ってしまった。きゃっと悲鳴をあげたのは彼女ではなく私のほうで、咄嗟に英語で詫びを入れたが私は既に放尿を開始していたのでそのまま彼女から離れるしかなかった。実に情けなかった。その後まだ寝ていた連中も起きて来て彼女と一緒に朝食をとるが、彼女は朝からペロンペロンにできあがっている。最近では寒いから一晩中酒を飲んでいるらしい。村では禁酒制が布かれていて酒が手に入らないため濁酒を作っている。一通り話をして我々はしつこくからんでくる彼女を横目に出発の準備に取り掛かるが彼女に気に入られた鹿野は10ドルで体を売るなどと猛烈に迫られて困っていた。そして全ての準備が整い彼女に別れを告げいざ出発という時私にとって運命の出来事がおきたのである。振り向いた瞬間彼女にキスされてしまったのである。しかもその場の配置からして髭面をした鹿野と藤巻の後にだ。彼女には失礼な言い方かもしれないが私は鹿野と藤巻の“残りカス”をもらったのである。もじもじしていた戸谷を除く（戸谷は経験があるらしい）他の連中にとっても恐らくこれが初めてであろう。あまりにもの不意打ちで数秒放心状態になってしまうが、我に帰ったときは既にいつもより速いストロークで村から逃げるようにカヌーを漕いでいた。

話を総合すると、私のファーストキスの相手は本遠征である朝最悪の出会いをしてしまったエスキモーの女性であり、しかも鹿野と藤巻の残りカスであるということだ。エスキモー村といえどもここは紛れもなくアメリカ社会、キスのひとつやふたつは彼女からしてみれば当たり前であったかもしれないが、私からしてみれば22年間恋人ができた時のために大事にとっておいたものだ。それなのに。やっぱり私は女運がないのだろうか。これからは人に聞かれた場合は“彼女いない歴22年であるがキスはしたことがある”と何ともハレンチな肩書で名乗らなければいけなくなってしまった。

この文を読んで恵まれない男に愛の手をと思った若い女性の方は今すぐご一報を。

